

## 20世紀初頭における日本のスポーツ用品産業

——1902（明治35）年発行『美満津商店定価表 No.18』の分析——

中 嶋 健

### 目 次

1. はじめに
2. 美満津商店と創業者伊東卓夫
3. カタログの概要
4. カタログ内容の検討
  - (1) ベースボール用品
  - (2) ローラテニス用品
  - (3) フットボール用品
  - (4) セット用品と女性への販売促進
5. おわりに

### 1. はじめに

これまでの日本スポーツ史研究は、幕末から19世紀末の文明開化期に伝播した近代スポーツの受容・普及過程を、学校・社会体育制度、高等教育機関における課外活動、体育・スポーツ競技団体の組織と事業活動、体育・スポーツ政策、体育・スポーツ思想等の視点から明らかにしてきた。このためスポーツ用具の歴史的研究は、近代スポーツとスポーツ用品産業の変遷に、相互の関係が存在したと述べる先駆的な論説において、新しい研究視点として注目されたが、全体としてスポーツ史研究課題解明のための補完的役割を果たすに留まってきた<sup>1)</sup>。

このことの当然の結果として、今日のスポーツ産業の啓蒙書では、日本のスポーツ用品産業は、「明治時代後半から野球用品の販売が手がけられてきた」が、「東京オリンピックが開かれた1964年ごろまで、スポーツ用品は日用雑貨用品の域をはず、町の運動具店において細々とした小売が行われてきたに過ぎない」<sup>2)</sup>と述べられざるを得ない。

けれども、スポーツ用具・施設は、スポーツ実践の物質的必要条件であり、日本に近代スポーツが導入された時から、この関係を切断することは出来ないはずである。

さて、日本におけるスポーツ用品製造販売業者の

嚆矢は、伊東卓夫の「美満津商店」、三浦亀吉の「潤広堂」、田中常吉の「田中運動具店」であり、その創業はいずれも1982（明治15）年であった。その後、東京において学校教材機器製造販売の同業組合が、上記業者を含む数十の運動具製造販売業者によって1904（明治37）年に設立され、1921（大正10）年には、この組合を前身とする「東京運動具製造販売業組合」が、58もの業者によって結成されたのであった<sup>3)</sup>。

一方、日本は1912（明治45）年に近代オリンピック第5回大会へ初参加し、その前年には、NOCを兼ねるアマチュア競技の全国的統括団体「大日本体育協会」を結成した。1924（大正13）年には、国家的行事として「明治神宮競技大会」も開催されている<sup>4)</sup>。

また、1921（大正10）年には、日本で初めてのプロ野球チームをかかえる「日本運動協会」が創立された。この事実は、それ以前に発展した大学野球や実業団野球における「入場料徴収＝ゲームの金銭化」が既にこれ以前に常識化していたことを証明している<sup>5)</sup>。

スポーツ用具の製造・販売業者にとってデザインや技術革新等による商品開発は、彼らの「発展」の一つの指標であり、重要なモチベーションである。そして、その目的は、競技力・記録向上をめざしスポーツをより高度化させるということと、プレイの安全性、簡易性や遊戯性等を高め、彼らの製品を広く認知させ、安定した市場の確立を目指すことにある<sup>6)</sup>。

つまり、上記のようなスポーツの発展状況下において、自助的業界団体を形成するまでになっていたスポーツ用品業者は、20世紀初頭において、すでに十分に活発な商品開発と市場確立を目指す事業を展開していたのではないのだろうか。

そこで、本研究では、スポーツ用品製造販売業者

の草創的存在であり、戦前期の体育・スポーツ用品業界の中心的役割を果たした「美満津商店」<sup>7)</sup>の商品カタログ内容を分析することによって、これまでのスポーツ史研究において十分に明らかにされてこなかった 20 世紀初頭の日本のスポーツ用具の具体的な製造・販売状況を明らかにすることを目的とする。

分析対象カタログは、1902（明治 35）年美満津商店発行の『美満津商店定価表 No.18』（以下、カタログ）である。これは、著者の知り得る範囲において、現存する日本のスポーツ用品製造・販売業者の発行した最も古いカタログであり、下関市立大学附属図書館に所蔵されている。

## 2. 美満津商店と創業者伊東卓夫

美満津商店は、1882（明治 15）年 5 月に東京で体操器械及び動物学標本の製造販売業者として開業した。創業者は、伊東卓夫（以下伊東）であった。

図 1 は晩年の伊東で、会社名は、彼の出身地と伊東家の家紋が三階松であったことに由来する。創業地は、東京神田区猿楽町 2 丁目<sup>8)</sup>であり、1897（明治 30）年に現在の東京大学赤門前の本郷区 5 丁目 10 番地に移転した。1900（明治 33）年には、新店舗を同地 12 番地<sup>9)</sup>に開き、1928（昭和 3）年までには亀戸に自社工場を構えている<sup>10)</sup>。さらに、時期は不明であるが、夏季営業所として軽井沢にも店舗を



図 1 伊東卓夫（『美満津の運動具(Mimatsu1930-31 Catalogue)』1930（昭和 5）年より）

表 1 美満津商店博覧会等受賞一覧

年	博覧会等名称	出品物（受賞名称）
1890	第 3 回内国勸業博覧会	体操用具 11 種の出品物一切に対して（褒状）
1895	第 4 回内国勸業博覧会	体操及遊戯用品 44 種の出品物一切に対して（有功三等）、動物学標本 83 種の出品物一切に対して（褒状）
1897	第 2 回水産博覧会	水産動物学標本（有功三等賞）、魚体発生解剖模型（有功三等賞）
1902	東京府教育品展覧会	学校用銃（二等褒状）、室内用鞭韃（二等褒状）、自在棍棒（二等褒状）、筋付器（二等褒状）、学校用銃（三等褒状）、単式エキセルサイザー（三等褒状）、子供用鞭韃（三等褒状）
1903	第 5 回内国勸業博覧会	ベースボール（一等賞牌）、ロンテニス用ラケット（一等賞牌）、大脳模型（一等賞牌）、クリケット用具（二等賞牌）、クロッカー（二等賞牌）、人体模型（二等賞牌）、喉頭（二等賞牌）、心臓模型（二等賞牌）、耳（二等賞牌）、胎児発生（二等賞牌）、フートボール（三等賞牌）、ロンテニス用具（三等賞牌）、女性人体解剖模型（三等賞牌）、人体骨格模型（三等賞牌）、動物学標本（三等賞牌）、有用植物学標本（三等賞牌）、植物学標本（三等賞牌）、紅花植物学標本（三等賞牌）、運動及び遊戯器具・球竿等 27 点（褒状）、オルガン（褒状）、鶏卵発育模型（褒状）、軍艦及軍艦切断模型（褒状）
1904	北米セントルイス世界大博覧会	不明（金賞）
1905	北米ポートランド万国大博覧会	不明（最高金牌及び付属賞状）
1906	東京勸業協会第 1 回製品品評会	体操具及び運動器械（金賞牌）、ヴァイオリン（銅賞牌）
1907	東京勸業博覧会	ベースボール用ボール（一等賞牌）、ローンテニス用ラケット（一等賞牌）、ローンテニス用ラケット（一等賞牌）、フートボール（三等賞牌）、オルガン（褒状）
1908	ロシアサンクトペテルブルク美術工芸万国大博覧会	不明（大銀牌及び付属賞状）
1910	日英大博覧会	不明（名誉賞）
1911	イタリア万国大博覧会	不明（名誉賞）
1914	南洋スマラン万国博覧会	不明（名誉大賞）
1915	サンフランシスコ万国博覧会	不明（名誉賞）

注) 美満津商店商品カタログ『美満津商店定価表 No.18』（1902 年）、『美満津商店総目録』（1904 年）、『美満津商店目録』（1909 年）、『美満津商店大正 8 年度商品定価表』（1919 年）より著者作成。

構えていた<sup>11)</sup>。

1860（万延元）年、伊東は、現在の三重県津市の安濃津藩の儒学者伊東修二郎の長男として誕生した。幼くして父を亡くした伊東は、安濃津藩の督学で儒学者であった祖父の野田竹溪の薫陶を受け成長する。そして、1876（明治9）年、京都の同志社英学校に入学し数ヶ月で退学するが、同志社大学社史資料センターに残されている「同志社英学校成績原簿明治9年」によると、伊東は入学当初からかなりの英語力を備えていたことがわかっている。その後、横浜と東京において、中村正直（敬宇）の同人社、明治学院大学の前身であるバラ校や先志学校において、伊東は英学や近代諸科学を学んだ。このような学歴によって、伊東は、宣教師でありかつ高等教育機関の教員でもあった居留外国人や日本を代表する多くの知識・教養人から美満津商店開業のための知恵と人脈を獲得し、弱冠22才で美満津商店を創業するのである<sup>12)</sup>。

創業後約10年にして、表1に示したように、美

満津商店製造の体操・スポーツ用具は、国内外の博覧会等において数多くの賞を獲得し、伊東は、この信用を学校をはじめとする顧客への商品販売宣伝に積極的に活用した。

また、伊東は、日本で最初の体育・スポーツ専門雑誌『運動界』の幹事を務め、『野球年報』<sup>13)</sup>の編集・発行を1902（明治35）年から1915（大正4）年まで13年間行っている。これらの他にも表2に示したように、各種スポーツのルール等を掲載した指導・解説書などの編集・発行も行っていた。

さらに、伊東は、1904（明治37）年に2、3の有力な運動具商とともに同業組合を組織し、東京における学校教材並びに体育・スポーツ用品の製造販売業界団体の中心的役割を担っていた<sup>14)</sup>。

図2は、1897（明治30）年7月発行の『運動界』第1巻1号の美満津商店広告における全国売り捌き所である。ここに示されたように美満津商店は、各地方の近代西洋文明流伝の窓口であった書店や洋品並びに学校教材等の取り扱い商店を通じて、創業後

表2 美満津商店出版等書籍一覧

発行年	出版書籍
1899	青井鉞男著、『ローンテニス』、美満津商店発行。
1901	青井鉞男著、美満津商店体操部編、『ベースボール』、伊東卓夫発行。 美満津商店体操部編、『学校用ホッケー』、伊東卓夫発行。 伊東卓夫著、『野球年報発行の旨意：付・明治34年度野球規則』、伊東卓夫発行。
1902	伊東卓夫編著、『ピンポン』、伊東卓夫発行。
1903	伊東卓夫編、『癸卯野球試合』、美満津商店発行。 美満津商店体操部編、『体操器械設計図解』、美満津商店発行。 美満津商店体操部編、『フットボール』、美満津商店発行。
1904	エドワーズ著・長塚順次郎訳、『魔球術（The art or corve pitching）』、美満津商店発行。 中馬庚著、『野球』、前川善兵衛発行、美満津商店売捌所。
1912	和田実著、『最新庭球術』、美満津商店体操部発行。
1915	和田実著、『最新庭球術』（再販 改訂増補）、美満津商店体操部発行。
1916	美満津商店出版部編、『クロケット：The Game of Croquet』、美満津商店発行。 極東競技委員発刊、『バスケットボール規定』、美満津商店発行。
1917	和田実著、『最新の庭球術』、美満津商店体育部発行。 極東体育協会編、『競走、跳躍、遊泳規定』、美満津商店発行。 極東競技委員発刊、『バスケットボール規定』、大日本体育協会発行、美満津商店発売。
1919	伊東卓夫編、『正式インドアベースボール規程』、美満津商店発行。
1924	伊東卓夫編、『How to Pingpong』、美満津商店発行。 西村正次著、『最新ヴァレーボール術』、美満津商店発行。 鈴木貞雄著、『卓球術：ピンポン』、美満津商店発行。 荒木直範著、『最新バスケットボール術：バスケットボール規定』、美満津商店発行。
1926	『エキセルサイザーとエキスパンダーの運動図解』、美満津商店発行。
1928	※美満津ヂムネジァム設計工事部編、『体育館の構造「Gymnasium」』、美満津商店発行。 ※美満津商店プレイグラウンド及びレクリエーション研究調査部編、『Mimatsu Time-Tested Apparatus for The Playground』、美満津商店発行。

注）※付き著書は、1928年に発行された美満津商店総合カタログ『Mimatsu Gymnasium & Playground Apparatus』に収録されているものである。



で、その内容について検討する。

### 3. カタログの概要

図3、図4はカタログの表紙と裏表紙である。これらからは、美満津商店の所在地、商品目、トレードマーク、登録商標や店舗の様子が見て取れるが、その発行年が記載されていない。ただし、カタログには、第3回・第4回内国勸業博覧会と第2回水産博覧会における受賞が宣伝されている。一方、「明治37年度版」と明記されている日本大学文理学部図書館所蔵『美満津商店総目録』には、上記博覧会の受賞宣伝に加えて1903（明治36）年開催の第5回内国勸業博覧会での受賞が宣伝されている。よって、カタログの出版年は1898（明治31）年～1902（明治35）年に限定される。さらに、カタログには1901（明治34）年11月発行の『学校用ホッケー』、『ベースボール』並びに1902（明治35）年9月発行の『野球年報』の出版広告があり、1903（明治36）年9月に発行された『フットボール』の発行予告が記載されている。以上のことから、このカタログは1902（明治35）年度版であると断定できる。

カタログの体裁は、縦24.5cm×横16.5cm、総頁数

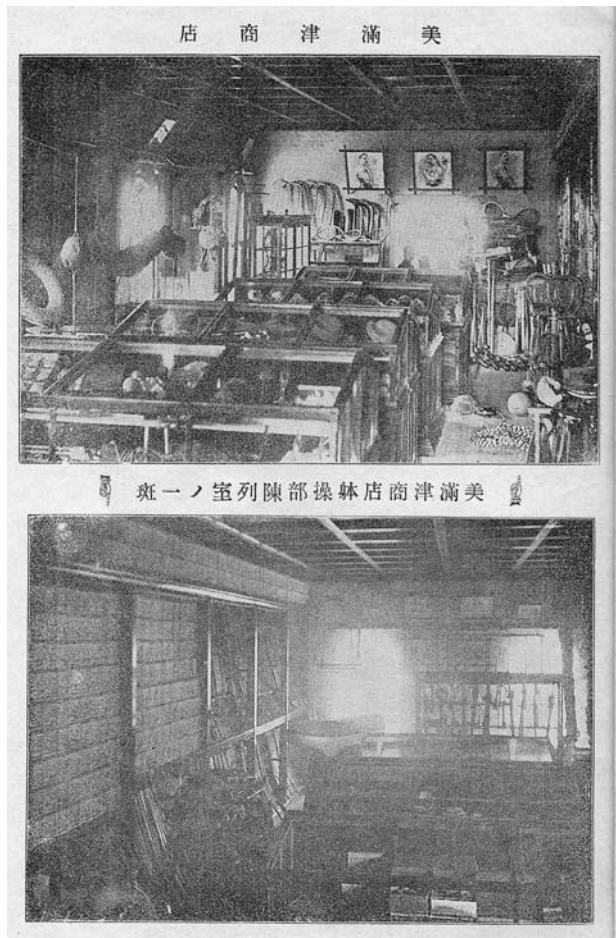


図5 美満津商店店舗内（『美満津商店定価表No.18』より）



図6 美満津商店員及び職工明治34年度春期運動会（『美満津商店定価表No.18』より）

は112頁である。掲載商品は、3部門に分類され、体操器械とスポーツ用品の体操部商品に51頁、博物学標本と人体学術用模型用品の標本部商品に48頁、製図機械・楽器類の雑種部商品に13頁があげられている。図判は全て単色両面印刷である。カタログ頁数から判断すれば、美満津商店は、体操器械・スポーツ用品と標本をはじめとする教育機材を同程度の割合で製造・販売していたと考えられる。

カタログには、図5、図6のように小売り店舗内や従業員運動会の写真が掲載されている。当時のスポーツ用品は大量生産・消費の時代ではなく、写真の小売店舗にはおそらく美満津商店製造商品のほとんどが見本品として常時陳列されていたと思われる

る。また、図6から少なくとも50人以上の職工及び店員を雇っていたことがわかる。

#### 4. カタログ内容の検討

先述したように、この時期の美満津商店は、スポーツ用品と教育機器の製造販売業者であったが、本節では主要なスポーツ種目に限定して、どのような用具がどの程度の価格で製造・販売されていたのかを検討する。

表3に示したように美満津商店体操部では、戸外運動器械類として、17品目、水上運動器械類として6品目。体操器械では、室内体操器械類が11品目、

兵式体操器械類が21品目であった。活力計器類が10品目であり、合計65品目にわたる商品を販売していた。さらにスポーツ用品に限定してその販売商品・サービスとその品種並びにその価格帯を明らかにしたものが表4である。スポーツ種目では、ベースボール、テニス、サッカー、ラグビー、クリケット、リンカ、バスケットボール、クロッカー、ホッケー、テザーボール、ラクロス、ラケットボール、ボールズ、クオイツ、ボクシング、ボウリング、ボート、水泳、水球、アイススケート、ローラースケート、自転車、陸上競技<sup>15)</sup>の22種目の商品を取り扱っていた。

カタログ記載頁数では、ベースボール14頁、ローンテニス10頁、フットボール2頁、クリケット1.5頁、ホッケー1頁、ボート1頁であり、その他の種目は、全て半頁以下の分量となっている。競技の特性等もあり、単純には評価できないが、少な

表3 美満津商店体操部取り扱い商品目一覧

<p>戸外運動器械類</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベースボール</li> <li>2. ローンテニス</li> <li>3. フットボール (アソシエーション流、ラグビー流)</li> <li>4. クリケット</li> <li>5. リンカ</li> <li>6. バスケットボール</li> <li>7. クロッカー</li> <li>8. ホッケー</li> <li>9. テザーボール</li> <li>10. ラクロス</li> <li>11. ボールズ</li> <li>12. 改良ハゴ板</li> <li>13. クオイツ</li> <li>14. 運動界競技用品</li> <li>15. ローラースケート</li> <li>16. 水スベリ器</li> <li>17. 自転車</li> </ol>	<p>兵式体操器械類</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連発式村田形学校用鉄銃</li> <li>2. 単発式村田形学校用鉄銃</li> <li>3. 村田形木銃</li> <li>4. 士官用指揮剣</li> <li>5. 海軍士官用形短剣</li> <li>6. 士官形背囊</li> <li>7. 楽隊用大太鼓</li> <li>8. 新式二巻喇叭</li> <li>9. シンバル</li> <li>10. 撃剣術道具</li> <li>11. 銃鎗術道具</li> <li>12. 柔術用道具</li> <li>13. 梁木及び梁木用付属具</li> <li>14. 鉄棒</li> <li>15. 手摺</li> <li>16. 水平杆</li> <li>17. 柵</li> <li>18. 跳繩</li> <li>19. 木馬</li> <li>20. 併行杆</li> <li>21. 水平杆</li> </ol>
<p>水上用運動器械類</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 端艇</li> <li>2. ウキブクロ</li> <li>3. ボート練習機</li> <li>4. ウォーターポロ</li> <li>5. 遊泳用衣服</li> <li>6. ボート用帽子</li> </ol>	<p>活力計器類</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体重計</li> <li>2. 握力器</li> <li>3. 身長計</li> <li>4. 肺活計</li> <li>5. 検眼レンズ</li> <li>6. 耳鏡</li> <li>7. 巻尺</li> <li>8. 炭酸定量器</li> <li>9. 教室用寒暖計</li> <li>10. 視力表</li> </ol>
<p>室内体操器械類</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 亜鈴</li> <li>2. 球竿</li> <li>3. 木環</li> <li>4. 棍棒</li> <li>5. エキセルサイザー</li> <li>6. チェストウエート</li> <li>7. 子供用鞞鞞</li> <li>8. 運動塔</li> <li>9. 拳球</li> <li>10. ボーリングアレイ用具</li> <li>11. サンダウ氏スプリングダンベル</li> </ol>	

表4 『美満津商店定価表 No.18』(1902年)におけるスポーツ用品価格帯一覧

種目等	用具	商品・サービス名(品種数)	価格帯	
			1902年	1987年現在(円)※
ベースボール	ボール	ボール(9)	1円40銭~20銭	12320~1760
		子供用ボール(3)	44銭~10銭	4400~880
		ボール修理1個	25銭~16銭	2200~1408
	バット	バット(5)	55銭~46銭	4840~4048
		子供用バット(3)	36銭	3168
		ノックバット(2)	24銭~22銭	2112~1936
	グローブ	キャッチャーズミット(10)	4円50銭~80銭	39600~7040
		子供用キャッチャーズミット(5)	2円70銭~95銭	23760~8360
		米国製キャッチャーズミット(3)	6円~3円25銭	52800~28600
		ベースメンミット(6)	2円~80銭	17600~7040
		フィルダースグローブ(4)	2円50銭~65銭	22000~5720
		子供用フィルダースグローブ	90銭	7920
		米国製グローブ	3円	26400
		ピッチャー用グローブ	1円	8800
	マスク	ベースボール用面(キャッチャースマスク)	3円~1円60銭	26400~14080
	ウェア類	ベースボール用衣服(2)	10円50銭~5円25銭	92400~46200
		ベースボール用帽子(4)	22銭~9銭	1936~792
		ベースボール用傘当(2)	1円15銭~85銭	10120~7480
		ピッチャー用腕筒	60銭	5290
	シューズ類	ベースボール用胸当(2)	2円50銭~1円50銭	22000~13200
		ベースボール用靴	5円75銭	50600
		ベースボールピッチャー用靴先金具	25銭	2200
		ベースボール用靴裏金具(2)	50銭~40銭	4400~3520
	その他	ベース(4)	3円65銭~1円20銭	32120~10560
		ホームプレート(3)	1円25銭~75銭	11000~6600
		ゲージ(1)	50銭	4400
		米国製ゲージ	1円60銭	14080
		見物人用ゲージ	1円	8800
		ベースボール用境界旗(2)	60銭~32銭	5280~2816
		ベースボール用後張り網(3)	5円75銭~4円	50600~35200
ベースボール用得点表示器(2)		11円~7円	96800~61600	
セット	ベースボールセット(6)	49円~11円25銭	431200~99000	
ローンテニス	ラケット	ラケット(16)	4円35銭~1円20銭	38280~10560
		米国製ラケット(4)	5円25銭~2円80銭	46200~24640
		英国製ラケット(各種)	12円50銭~7円	110000~61600
	ボール	ボール1ダース(2)	2円90銭~2円25銭	25520~19800
		英国製ボール1ダース(4)	12円50銭~3円95銭	110000~34760
		ゴムマリ1ダース	時価による	
	ネット	ネット(7)	4円50銭~1円75銭	39600~15400
	ボール	ボール(4)	4円40銭~1円50銭	38720~13200
	器具類	ラケットプレス器(7)	4円25銭~40銭	37400~3520
		テニスラインマーカー(2)	4円~3円	35200~26400
		グリップカバー	1円75銭	15400
		ラケットカバー(6)	3円~90銭	26400~7920
		ラケットスタンド(4)	8円50銭~4円	74800~35200
		コート用巻き尺	4円	35200
		得点板(2)	11円~7円	96800~61600
	セット	箱入りローンテニスセット(15)	32円50銭~12円60銭	286000~110880
		子供用箱入りローンテニスセット	11円70銭	102960
		米国製ラケット・英国製ボール入りセット(4)	31円50銭~23円50銭	277200~206800
	その他	ガット修理・張替	2円25銭~65銭	19800~5720
		英国製・美満津製室内用ローンテニス1式 (The Electric Table Tennis)		
	テニスコート設計施工	見積もり		

20世紀初頭における日本のスポーツ用品産業

種目等	用具	商品・サービス名 (品種数)	価格帯		
			1902年	1987年現在(円)※	
フットボール	アソシエーション流 ボール	英国製ゴム入りフットボール (8)	6円45銭～2円80銭	56760～24640	
		英国製フットボール用ゴム (8)	3円95銭～1円35銭	34760～11880	
		フットボール用皮袋 (8)	2円55銭～1円50銭	22440～13200	
		練習用フットボール (3)	2円80銭～2円10銭	24640～18480	
	ラグビー流 ボール	英国製ゴム入りフットボール (4)	5円98銭～4円30銭	52624～37840	
		英国製フットボール用ゴム (4)	3円60銭～2円30銭	31680～20240	
		米国製フットボール (3)	6円～5円	52800～44000	
	その他	フットボール用皮袋 (4)	2円35銭～2円	20680～17600	
		英国製ホイッスル	1円20銭	10560	
		修理用ゴム	75銭	6600	
クリケット	バット	ボール修理1個	1円50銭～1円	13200～8800	
		バット (2)	1円20銭～90銭	10560～7920	
	ボール	英国製ボール (6)	3円75銭～65銭	33000～5720	
	防具	脛当て等 (4)	5円～3円75銭	44000～33000	
	セット	英国製ボール入りセット (4)	7円～4円50銭	61600～39600	
	器具類	ネット (2)	3円75銭～2円50銭	33000～22000	
ウィケット		3円30銭	29040		
リンカ	セット	輸入品	36円	316800	
		和製品	7円	61600	
バスケット ボール	ボール	ボール (3)	5円20銭～4円	45760～35200	
	リング	バスケット用受け網	3円50銭	30800	
クロッカー	セット	セット (4)	7円75銭～5円95銭	68200～52360	
ホッケー	スティック	ボール	英国製ボール (4)	3円75銭～75銭	33000～6600
		スティック (3)	3円～1円75銭	26400～15400	
		英国製スティック (2)	7円～4円75銭	61600～41800	
テザーボール	セット	セット (2)	13円50銭～7円65銭	118800～67320	
	ボール	ボール	85銭	7480	
	ラケット	ラケット (2)	1円80銭～1円55銭	15840～13640	
	その他	ボールつなぎ金具	4円50銭	39600	
ラクラッス	スティック	スティック	2円90銭	25520	
	ボール	ボール	75銭	6600	
ラケットボール	セット	セット (2)	2円70銭～2円25銭	23760～19800	
ボールズ	ボール	ボール (2)	3円50銭～2円85銭	30800～25080	
クオイツ	セット	セット	3円50銭	30800	
ボクシング		拳球：ストライキング・バック (2)	4円80銭～4円50銭	42240～39600	
ボウリング	セット	ピン・ボール・ボール止・掲示黒板			
端艇		端艇 (12) 注：カヌーを含む	350円～77円	3080000～677600	
		ボート練習器 (2)	3円50銭～4円	30800～35200	
		帽子 (3)	50銭～18銭	4400～1584	
水泳		水着 (各種)			
		浮き袋 (4) 注：ライフジャケットを含む	7円～3円	61600～26400	
ウオターポロ	ボール	ボール (3)	6円～4円70銭	52800～41360	
氷スバリ器	靴	アイススケート靴 (3)	5円～4円50銭	44000～39600	
ローラースケート	靴	ローラースケート各種			
自転車		米国スポルディング社製	110円	968000	
運動会競技 用品		綱引き用綱 (8)	17円～4円75銭	149600～41800	
		囊脚 (2)	45銭～40銭	3960～3520	
		豆囊 (2)	17銭～15銭	1496～1320	
		障害物用麻綱 (2)	9円50銭～6円50銭	83600～57200	
		ズーク製障害物競走用パイプ (4)	11円～4円50銭	96800～39600	
		ハンマー (2)	2円75銭～2円25銭	24200～19800	
		砲丸 (2)	1円60銭～1円50銭	14080～13200	
		空気銃 (2)	2円85銭～2円40銭	25080～21120	
		競技用帽子 (4)	22銭～6銭	1936～528	
		五色競争旗 (2)	80銭～40銭	7040～3520	
		鈴付飛縄	48銭	4224	



種目等	用具	商品・サービス名 (品種数)	価格帯	
			1902年	1987年現在(円)※
運動会競技用品		飛繩	35銭	3060
		舶来螺旋巻飛繩	50銭	4400
		運動靴	2円~50銭	17600~4400
		ゲートル	1円50銭~45銭	13200~3960
		運動会用各国旗 (2)	23円~19円	202400~167200
		簡易投環	2円25銭	19800
		輪投受け	2円75銭	24200
		女子用ナインピンズ	3円50銭	30600
		トロッコ (2)	5円~4円40銭	44000~38720
		塗り弓 (薩摩弓)	15円~6円50銭	132000~57200
		塗り弓 (京都弓)	7円~4円	61600~35200
		四ツ矢	17円~7円	149600~61600
		撰り矢	1円50銭	13200
弓弦切り取り	13銭~8銭	1144~704		
ヤワラカボウシ (4)	3円25銭~25銭	28600~2200		

※1987年現在の価格帯は、「週刊朝日編、朝日新聞社発行『値段史年表 明治・大正・昭和』(1988年)」における47商品と比較し、1銭=88円とした。ちなみに、この値で算出すれば、1902年における銀行員の初任給は35円で3万8000円、江戸前寿司10銭は880円、もりそば5銭は440円、天井8銭は704円である。

くとも記載頁数は用具種類と比例関係にあり、その意味で当時の日本では記載頁数の多い種目が普及していたと考えられる。そこで次にベースボール、ローンテニス、フットボールを中心にカタログ内容の詳細を検討する。

### (1) ベースボール用品

図7はベースボール商品カタログの一部である。

ボールの品種には、特別、一等(優等)、二等(上等)以下3号、4号、5号、6号、7号ボールと3号ボールの子供用、子供用8号ボールに3品種の計12品種ものボールが販売されていた。これらは全て「美満津商店製造」の国産品として販売され、完成品としての輸入野球ボールは販売していなかった。

ただし、特別ボールは、「米国ヨリ球真材料一切



図7 ベースボール用球 (『美満津商店定価表 No.18』1、2頁)

ヲ取寄セ特別ニ鑑製シタルモノニテ普通一般ノ製品ニアラズ」と説明され、二等ボールは心のみ米国の輸入品を使用したと説明している。ボールは、当時の選手からは「美満津の何号ボール」と称され、もっともよく売れていた<sup>16)</sup>ようであり、カタログにも「此球ハ弊店体操部特技ノ愛嬌品ニシテ全国野球家各位ハ勿論亦タ至ル處トシテ三号ボール、三号ボールと喧伝賞サル」<sup>17)</sup>と述べられている。表4から明らかなように1球の価格は、現在の感覚からは高価であり、1球ずつ箱入りで販売されていたことも容易に納得できる。当時のボールは、あくまで試合用として大切に使用するものであり、練習用にどしどしと使うようなものではなかったと想像できる。このことは、現在ではほとんどが使い捨てであるボール修理を、美満津商店がアフターケアとして行っていたことでも明白である。カタログには、「ベースボール用球ノ修理料金ハ一箇ニ付上等修理金貳拾五銭 中等修理金貳拾銭 並等修理金拾六銭」<sup>18)</sup>と附記されている。

美満津商店は、体操及び球技用品44種を第4回内国勸業博覧会に出品し、褒状を受賞している。カタログには、「弊店製造ベースボール用球ノ儀ハ第四回内国勸業博覧会ニ於テ製球順序一函ヲ出品物中

に加エ製球法ヲ明ニ公表致候」<sup>19)</sup>と明記されている。博覧会への出品と受賞は、美満津製品の信用を高める一方で、類似品あるいは粗悪品の販売を派生させたとも思われ、この点は、カタログで製品毎に「弊店製造の登録商標」<sup>20)</sup>の確認を要求することや、ボールでは「一撃百ヤード以上ニ達シ球体異状ナシ」<sup>21)</sup>などと説明されていることから容易に想像できる。

図8、図9に見られるように、美満津商店は、ボールの他には、バット、グローブ、マスク、ウェア、シューズ、ベース、ホームプレート、ゲージ、バックネット、得点板、スコアブックなどを製造・販売している。これらの商品は、ボールと同じようにまず製品の図を示し、その詳細な説明の後にそれぞれの品種毎の価格表を示すという形式でカタログに掲載されていた。

バットは、ボールと同様全て美満津製の国産品であり、優等以下1号バットから4号バットまで5品種を揃え、このほかに子供用バットを3品種とノックバットとして2品種、全部で11品種のバットを販売している。バットの製造方法について「此ノ『ミマツスバット』ハ一々割リタル用材ノ最モ数多キ其中ヨリ特ニ木理及ビ適当ノ重量等ヲ選択シ、尚

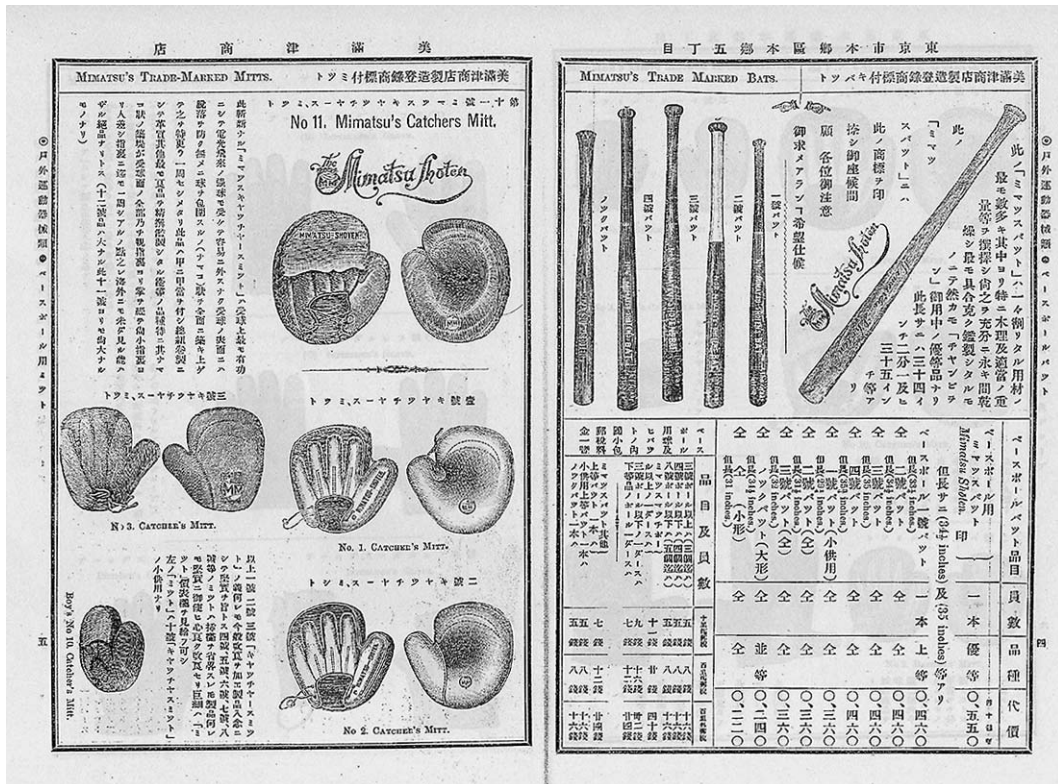


図8 ベースボール用バット・ミット (『美満津商店定価表 No.18』4、5頁)





あった。この製品は、美満津製と明記されていないことから他のメーカー商品であったと思われる。

カタログにおいて注目すべき点は、「ゴムマリ」という表記であり、1ダース「中形」のものが「時価」で販売されていた。ボールが輸入品であったことと、後に日本式軟式テニスが隆盛することなどから、美満津商店が販売していた主要なローンテニス用品は明らかに硬式テニス用品であったと言える<sup>26)</sup>。ちなみに、日本における軟式テニスボールは、1900（明治33）年に三田土ゴム製造会社が行った。同社製造のボールは「赤M」と呼ばれていた<sup>27)</sup>。

美満津商店は、ローンテニス用具の他にラケット修理やガットの張替のアフターケアもラケットの品種に合わせた価格で提供し、「ローンテニス会場ヲ始メ其他運動会場一切ノ設計工事ニ関スル請負可仕候」<sup>28)</sup>と述べ、テニスコート並びに体育施設の設計施工も手がけていた。

### (3) フートボール用品

図12に見られるように、フートボール用品は、「アツソシエーション流フートボール」と「ラグ

ビー流フートボール」が販売されていた。現在とは異なり、中ゴム袋と外皮袋は別になっており、中ゴム袋入りボールの他に中ゴム袋と外皮袋だけの販売を行っていた。製品は、そのほとんどが英国製の輸入品であり、これに美満津商店の登録商標を刻印し販売していた。

「アツソシエーション流フートボール」は、英国製のものであり、子供用を1品種含み8品種取り扱っていた。このほかにゴム袋ではなく海綿を入れた「稽古用」を3品種販売しているが、これが英国製のものかどうかははっきりしない。

「ラグビー流フートボール」は、英国製のものが中ゴム袋入りと中ゴム袋と外皮袋それぞれ4品種が販売されていた。米国製のものも販売されているが、これは中ゴム入りのボールのみが3品種販売されている。このボールは「吹込管付」と説明されているので、中ゴム袋を取り出せないアメリカンフットボール用のボールであったとも考えられるが、このことを確認するためには、当時のアメリカにおけるスポーツ用品製造状況との比較検討が必要である。

ボールの他には、「フートボールゴム修理用ゴ

Figure 12 consists of two pages from a catalog. The left page (No. 24) is titled '美満津商店' and lists various football equipment. It includes a table with columns for '品目' (Item Name), '数量' (Quantity), '品数' (Number of Items), and '代価' (Price). The items listed include different types of footballs (e.g., 'アツソシエーション流', 'ラグビー流'), bladders, and repair kits. The right page (No. 25) is titled 'ASSOCIATION AND RUGBY FOOT BALL GOODS' and features illustrations of a football, a player, and a repair kit. It also includes a table with columns for '品目' (Item Name), '数量' (Quantity), '品数' (Number of Items), and '代価' (Price). The items listed include different types of footballs (e.g., 'アツソシエーション流', 'ラグビー流'), bladders, and repair kits. The catalog also includes some text in Japanese and English, such as 'アツソシエーション流フートボール' and 'ラグビー流フートボール'.

図12 フートボール用品 (『美満津商店定価表 No.18』24、25頁)

ム」、「フートボール用指揮笛（英国製）」が販売されており、ボール修理も請け負っていた。

(4) セット用品と女性への販売促進

最後に、近代スポーツの普及という点で、この時期の美満津商店のスポーツ用品販売において注目すべきものとして、セット販売と女性への販売促進に注目したい。

図13は、バールボールとローンテニスのセット販売商品頁の一部である。セット商品は、ゲームを行うのに必要な用具一式と競技解説書が一箱に梱包されており、そのスポーツをゲームとして初めて楽しむものにとっては非常に便利なものであった。スポーツを実施してみようとする学校や組織において不可欠であった用具の購入は、極めて高価であっても、まずはこれを購入すれば事足りたのであった。

また、クロッカーとホッケーは、「女子競技ニ最も適当ナル」<sup>29)</sup>と述べられ、ボウリングにも「男女共遊セラルル室内遊戯」<sup>30)</sup>として紹介されている。テザーボールは、女性の遊戯場面の図によって紹介され、本論では取り扱わなかった「エキセルサイザー 軽便携帯室内運動器 (The Whitely Health Exercise)」や「運動塔 (Maypole Exercise)」にも女性の遊戯図を掲載している。1901 (明治34)年伊東卓夫発行『ベースボール』の巻末商品カタログにおけるホッケーの頁には、以下のような記述がある。

「婦人の戸外運動としては、今日の所単に『ローンテニス』や『ホワイトレーエキセルサイザー』のみに限らるるが如きも、尚或はローンテニス以外のものにして婦女子に適する遊技ありやと諸方より弊店に来訪せらるる方ありて、弊店も之れの発見には非常に辛苦したりしが、今や或る運動家に之れが意見を尋ねたる所、其運動家は然らば英国などにも盛んにて、男子或は婦女子の間に行わるる『ホッケー』なるものありて、其遊技は云々なりと説明せられたり。弊店も之れをききて暗夜に燈火を得たる心地したれば、其運動家に乞うて其案内を一遍の小冊子として、之を広く世に頒たらんとて今や其印行中にあり、近日將に出来せんとす。本店の考えにては、婦人の運動として之れに優るものなしと信すれども、尚大方の諸賢一読せられて、其適否を判せられ



図13 セット用品 (『美満津商店定価表 No.18』13、18頁)

んことを祈る。美満津商店体操部」(句読点著者)<sup>31)</sup>

そして、同年、伊東卓夫によって発行された『学校用ホッケー』の序言には、以下のように記されるのである。

「先年美満津商店主人予が寓居に来たりて問て曰く、ローンテニス以外に簡単に面白き婦女子に適する戸外遊技なきやと。予は英国にて盛んに行はるるホッケーなるものこれ至極適当なれと答えて、且つ其説明をも與へ置きたるに、近日に至りて主人また来り其談話によりて外国より見本を取寄せ、これが製造に従事したるに已に完全なるものを製造し得たれば、此技を広く世に紹介せんため是非に其説明を一遍となせよと乞うて止まず。予固辞すれども、主人の熱心終に勝つ能わず漸くその見聞せる所を集めて一遍としてこれを主人に贈る。以て、この技を知るの一助と為ることを得ば編者の幸これに過ぎず」<sup>32)</sup>

伊東、そして美満津商店は、女性への運動の奨励を強く志向し、そのための新しいスポーツの紹介と

普及並びに用具の販売を通じて近代的な新しい生活文化を弘めようとしていたのであった。

## 5. おわりに

ここまで『美満津商店定価表 No.18』の内容を検討してきたが、20世紀初頭における日本のスポーツ用品の製造販売業は、今日のスポーツ産業の啓蒙書が述べる状況を遙かに陵駕するものであったと言える。

学校教育教材の製造販売と共に始まったスポーツ用品の製造販売は、美満津商店と2、3の業者の創業によって、一挙に1882（明治15）年に始まり、その後10数年程度でスポーツ用品の需要は急速に拡大した。また、美満津商店に見られるように各業者は、地域の書店や洋品販売店などを通じて、この時期に既に全国的な製品販売流通機構をも確立していた。もちろんこの歴史的評価は、他のスポーツ用品製造・販売業者の状況と、背景としての鉄道網の成長や郵便・輸送制度の成立、主要産業の状況などとの関係をふまえて、詳細に実証する必要がある。

また、美満津商店は「はじめに」において説明したように、単に「野球用品の販売」だけではなく、ベースボール、ローンテニスを中心に22種目ものスポーツの用具類を販売していた。中でもベースボールやローンテニスでは、現在のものに遜色がないほどの用具の種類と品種を揃え、これらの修理や施設の設計施工にまでその業務を拡大していた。製品のいくつかは、国内だけでなく海外での博覧会でも表彰され、このことによって美満津製＝日本製の品質保証とメーカーとしての信用を確固なものとしていた。このような品質向上への努力が、以後のアジア植民地地域への日本製スポーツ用具の輸出へどのように影響するかも、今後の興味深い課題である。

ただし、ゴム製スポーツ用具の製造技術は、まだ十分に獲得されていなかった。そのため、美満津商店では、フットボールの中ゴム袋やローンテニスボールはイギリスの輸入品を極めて高価な値段で販売せざるをえない状況にあった。

これまでのスポーツ通史<sup>33)</sup>では、近代産業革命の成果として、特に鉄とゴムの実用化が、スポーツ用品の大量生産を可能にし、これが「スポーツの大衆化」に大きく影響したと述べられているが、20世

紀初頭における日本のスポーツ用品産業は、まだこの段階にはなく、近代以前の木製・革製製品の加工技術を利用した家内工業的段階にあったと言える。このことから、三田土ゴム製造会社によるゴム製ボール開発の成功は、日本的「軟式」スポーツの隆盛が、日本における「スポーツの大衆化」の原初となると想像できるが、これはまた別の課題として検討しなければならない。

さらに、バスケットボール、ホッケー用具の販売は、一般的なスポーツ通史における日本へのこれらのスポーツ種目の紹介・伝播の時期<sup>34)</sup>より早く、齟齬がある。

つまり、美満津商店は、すでにこれらのスポーツを知っていた裕福な居留外国人やYMCAなどのキリスト教布教組織を顧客としていたと思われる。このことは、伊東の経歴や彼が強く女性や子どもへの運動・スポーツの奨励を志向したことから判断しても、十分に信憑性があると思われるが、これも別の課題として実証されなければならない。

ただ別の見方をすれば、美満津商店の商品カタログそれ自体が、日本人が新しい西洋文化としてのスポーツを知る機会を提供していたのであり、美満津商店が積極的に行っていたスポーツ専門情報雑誌やスポーツ指導・解説書の発行と同様に、日本におけるスポーツメディア産業の黎明でもあったのである。

## 注

- 1) 草深直臣、「スポーツコマースリズム」、『スポーツを考えるシリーズ 国民スポーツ文化』、大修館、1977年、273頁。寒川恒夫、「スポーツ産業の今日的意味」、『体育の科学』39巻10号、1989年10月、748-749頁。寒川恒夫、『図説スポーツ史』、朝倉書店、1992年、132-147頁。稲垣正浩・谷釜了生編著、『スポーツ史講義』、大修館、2006年、72-73頁。
- 2) 原田宗彦編著、『スポーツ産業論入門』、杏林書院、第1版、1995年、4-12頁。同上、第3版、2003年、2-16頁。原田宗彦編著、『スポーツ産業論』、杏林書院、第4版、2010年、19頁。
- 3) 「第2編東京運動具製造販売業組合史」、東京運動具製造販売業組合編、『東京運動具製造販売業組合史』、東京運動具製造販売業組合発行、昭和11年、1-15頁。
- 4) 岸野雄三編著、『近代体育スポーツ年表』、大修館、1999年、114-117頁、140-141頁。

- 5) 菊幸一、『近代プロ・スポーツ』の歴史社会学—日本プロ野球の成立を中心に—、不昧堂、1993年、123-125頁。
- 6) 中嶋健、「スポーツ産業史研究の分析枠組み—北米におけるスポーツ用品業界・企業研究の検討—」、大熊廣明監修『体育・スポーツ史にみる戦前と戦後』道和書院、2013年、156-168頁。
- 7) 大熊廣明・成田十次郎・阿部生雄・中村哲夫・中嶋健、「19世紀末の雑誌広告に見られるスポーツ産業」、日本スポーツ産業学会（於：パシフィックホテル沖縄）、『第2回日本スポーツ産業学会大会号』、97-100頁、1993（平成5）年1月。中嶋健・大熊廣明・中村哲夫、「19世紀末における日本のスポーツ産業—体育・スポーツ雑誌広告の分析から—」、『スポーツ産業学研究』、日本スポーツ産業学会、3巻2号、27-36頁、1993（平成5）年9月。中嶋健、「20世紀初期わが国における運動具製造販売業に関する一考察—美満津商店を中心として—」、日本スポーツ産業学会（於：目黒雅叙園）、『第3回日本スポーツ産業学会大会号』、84-87頁、1993（平成5）年9月。中嶋健、「20世紀初頭、『美満津商店』商品カタログにみる日本のスポーツ用品産業」、日本スポーツ産業学会スポーツ産業史専門分科会定例研究会兼韓・日スポーツ産業史研究セミナー：The Current Status of Historical Studies for School PE Facilities and Equipments（於：大韓民国中央大学校）、『韓日スポーツ産業史研究セミナー大会号』、45-51頁、2012（平成24）年3月。
- 8) 大櫃敬史、「体操用具国産化への道—初期の内国勸業博覧会および教育博物館出品物を通して—」、『北海道大学教育学部紀要』54号、1990年、21-22頁。
- 9) 1900（明治33）年1月発行の雑誌『運動界』（第4巻1号）の美満津商店広告から同商店住所が「東京市本郷5丁目10番地12番地」と表記されるようになった。
- 10) 1928（昭和3）年美満津商店発行のカタログ『美満津の運動具（Mimatsu Sport Goods）』に「弊社経営の亀戸工場は上記の各種運動具を製作いたしますに充分、完全に設備されて居ります。」と明記されている。
- 11) 「昭和10年12月現在 組合員一覧」、東京運動具製造販売業組合編、『東京運動具製造販売業組合史』、東京運動具製造販売業組合発行、昭和11年、1頁。
- 12) 中嶋健、「伊東卓夫、『美満津商店』創業までの経緯」、阿部生雄監修『体育・スポーツの近現代—歴史からの問いかけ—』不昧堂出版、2011年、213-226頁。
- 13) 『美満津商店定価表』における『野球年鑑』発行広告においては、「本書ハ毎年七月一回発行スル其年度全国野球ノ記録ニ選手ノ肖像及米国ニ於ケル毎年ノ新規定ヲ附加シ野球界ニ報道スル處ノ年報」（カタログ51頁）と説明されるスポーツ年鑑的な性質のものであった。
- 14) 1903（明治36）年に伊東卓夫が代表となり、山川甚兵衛、安藤清次郎、石井元吉らと同業組合を組織した。1907（明治40）年に同組合は教育用品同業組合に糾合され、1911（明治44）年に解散している。後に、1920（大正9）年に再び結成された「東京運動具製造販売業組合」の組合規約は伊東の草案であった。伊東は、同組合会長に推薦されたが、これを固辞している。（東京運動具製造販売業組合編、『東京運動具製造販売業組合史』、東京運動具製造販売業組合発行、昭和11年、1-15頁。）
- 15) リンカやクオイツは、現在ではほとんど知られていないスポーツ種目である。リンカは、カタログでは、LINKA（The New Golf Game）と表記され、ひものついたゴルフボールを打つ挿絵が掲載されている。クオイツは、Quoitsと表記され、研究社英和大辞典では、「鉄輪投げ（土中に立てた鉄棒に向かって鉄輪を投げる遊戯）」と説明されている。カタログには、この鉄輪と鉄棒の挿絵が掲載されている。
- 16) 前掲11)、「第1編 運動競技の発達及運動具」、119頁。
- 17) 『美満津商店定価表 No.18』、3頁。
- 18) 同上、3頁。
- 19) 同上、1頁。
- 20) 同上、2頁。
- 21) 同上、3頁。
- 22) 同上、4頁。
- 23) 同上、5頁。
- 24) 同上、14頁。
- 25) カタログには、「Ayre's Tennis Ball」と表記されたボールが描かれておりイギリス、エアーズ社製のボールであることがわかる。  
ホッケー史研究者である神戸大学の秋本氏は、このエアーズ社がホッケー専用ボールの開発に関わったことを明らかにしている。秋本氏は、エアーズ社についてLowersonを引用し、同社がイギリスロンドンにおいてスラゼンジャー社に並ぶ大手スポーツ用品総合メーカーであり、同社製のローンテニスボールが、1881年以降のウィンブルドン選手権の公認ボールであったと述べている。（秋元忍、「19世紀末イングランドにおけるホッケーボールとしてのクリケットボール採用時の経緯」、『体育学研究』50、2005年、278頁。）
- 26) 前掲17) 21頁。
- 27) 昭和ゴム社史編集委員会、『昭和ゴム30年小史』、昭和ゴム株式会社、1969年、31頁。



- 28) 前掲 17)、23 頁。
- 29) 同上、28 頁。
- 30) 同上、38 頁。
- 31) 青井鉞男著、美満津商店体操部編、『ベースボール』、伊東卓夫発行、1901 年、「巻末美満津商店カタログ」19 頁。
- 32) 著者は不明である。美満津商店体操部編、『学校用ホッケー』伊東卓夫発行、1901 年、1-2 頁。
- 33) 前掲 1) 寒川了生『図説スポーツ史』132-138 頁、
- 稲垣・谷釜『スポーツ史講義』72-73 頁。
- 34) バスケットボールは、一般的には 1908 (明治 41) 年国際 YMCA トレーニングスクール卒業の大森兵蔵が東京 YMCA で紹介したとされている。ホッケーは、1906 (明治 39) 年、東京麻布にあった聖アンドリュース協会の牧師が慶應義塾の学生に教えたのが最初である。(日本体育協会監修、『最新スポーツ大事典』大修館、1987 年、989 頁、1190 頁。)